



西垣文庫
文庫 10
8828
2





印

ねを群

平〜〜十女代大橋〜俣めど同御の
 人〜〜は舟と〜〜
 愛〜〜押〜〜はる〜〜チヤキ〜〜の群
 ち〜〜を〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜



Handwritten text in a cursive script, possibly a mix of English and another language, written on the right page of a lined notebook. The text is arranged in approximately five lines within a green-bordered box. The characters are dark and fluid, with some recognizable words like "the" and "and" interspersed with more complex, possibly non-English characters.

水邊中へ島二丁目住

久保田有恒

字 緞 號 葦 尾



江村はつとむいほつとむれはと
あつとむるこつとむれのあつとむるを

おはようございます

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

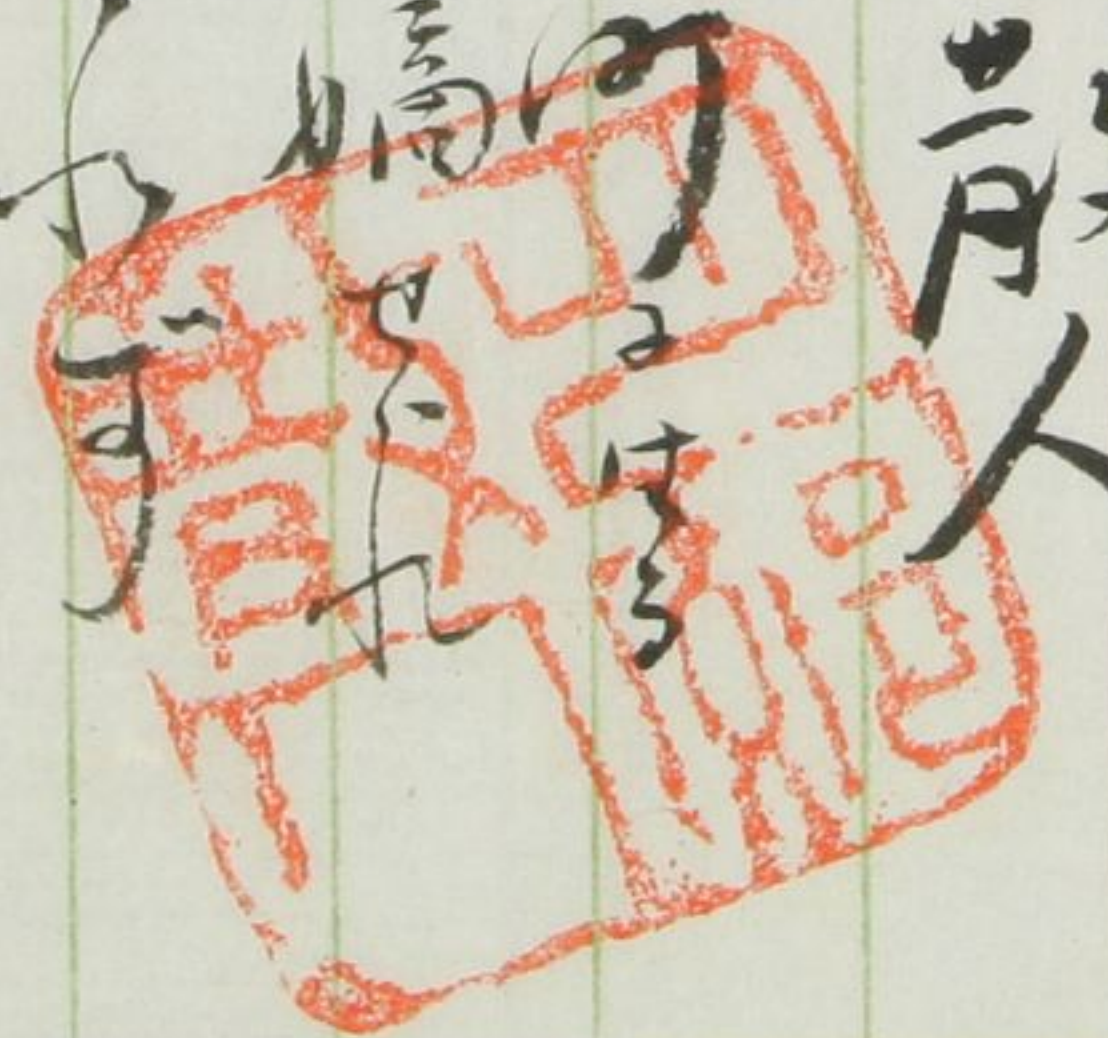
~~~~~


字長識本

杉本長根

月之知三般人

明治二年一左所為
家世系を尋りて之痛
下りて、おのゝ家や
集心、懐古多事



平安の風流、静かに

今も昔も変わらず

日々を暮らす者

赤松麟作



生れたるは作は山五十八の時より

大政一人とあり何れ考へるも

山内氏の画を讀むに其小なり

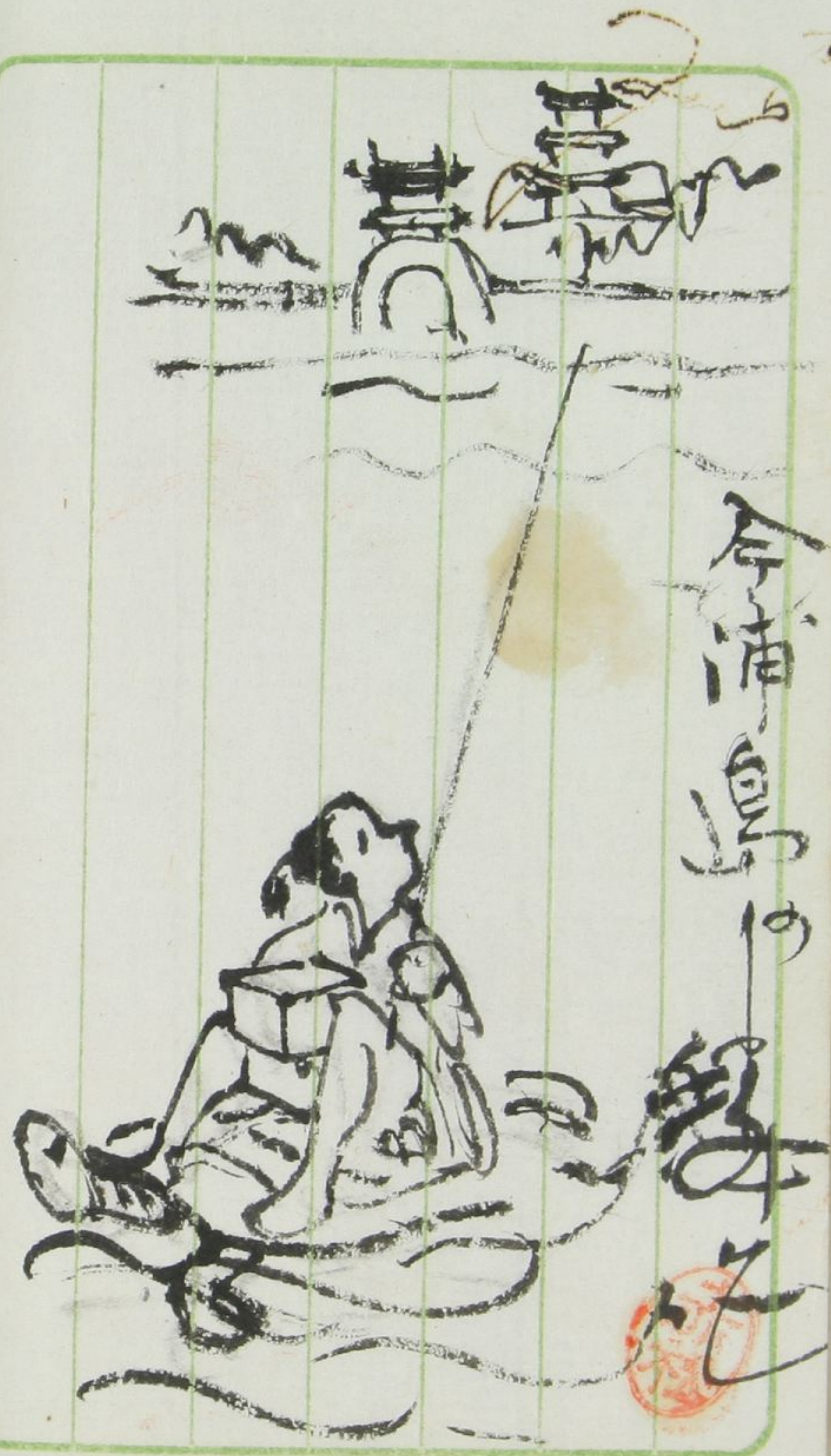
美術史の校と出で伊勢地伊



小教師の所
今日新聞
西と痛之只存北七才

只今七十二才四十五年前の自
有さ見ふふつうに死した
小供を思ふおと女替り
四十五才か何かに出来た
せはたはとらり描た
通と夫のた中画のB
29
・・・

よはつとくさだらうぬぬ
を描は居たこと一葉に
久今も書るを見よ。お
か成らじいさ只一人も
其の由はとあつてあつ
昭お二十四もあつて
の異ししがも書る持て
る



今浦島の
母



富岡謙三

父は鐵齋母春子明治六年二月十七
 日京都鴨涯山陽外史の舊居に
 生る幼より多病にして文部省の
 教育を受けず獨學固陋自
 守りて敢て世の風潮を顧みず藏

書萬巻多きを人負つてヤキヤ
優遊自適漸く老いむとす

岡田茂馬

えん元斗伊藤の和島に生れ
入小新守りともく記者志願と起し成
切とせが止あもあふりし年事ふじ
の心もつちりるあふハメの成しあめ
近段ちらつぱり狂飲の癖成と奪得
しく折し解れらあれ志をちりあり年

近い所ぞら逢北の天候と説く

狐啼くコシ河の影んを子軍の

奇討の畏ふ懸らきにけり

陽さば甘誓とくくは淨臨臨の一年あり

今知るとあひの人多くせり我らぞ

死ふ事ありまらん古の報が恐らし

多し

甘金のひねる。隠坊ちうおん
ぼ〜とつ〜とつとる。意とをきく
さるこ 詠が
近詠一ゆードこナモシガと
漢の臣が

想のまの意

去る行れれあも我や月の想も意
いんあしそ心ふりなほの夜粟
つをまの果外なるく打りこく
こらりんぬ人の既米ちてを隠
ニ 漢のまの



柴原記二

紀元二千五百二十六年八月四日
州揖保内、西託所ニ遊
經我ノ海ニ、二早本ナリト
明治ノ元勅、自ニ能ク差
疎疎ノ産系トハ、殊果
既報

二月廿五日ノ外ニ種号トカ申ス
信一各等ノ安ん我等ノ能ト
成りトリ樽川又三不能ト
早ス

昭和三十一年一月

先皇御紀

都鳥英查

生れなる千葉の兵隊のつぼみ
贈かきまゝのくさ草都がどころか
かきつてみまのくさ草のつぼみ
三十一

佐々時子一
のあまのつとめ
三十二年の
と若くは
と若くは



Blank lined page with vertical green lines.

後醍醐院廬山

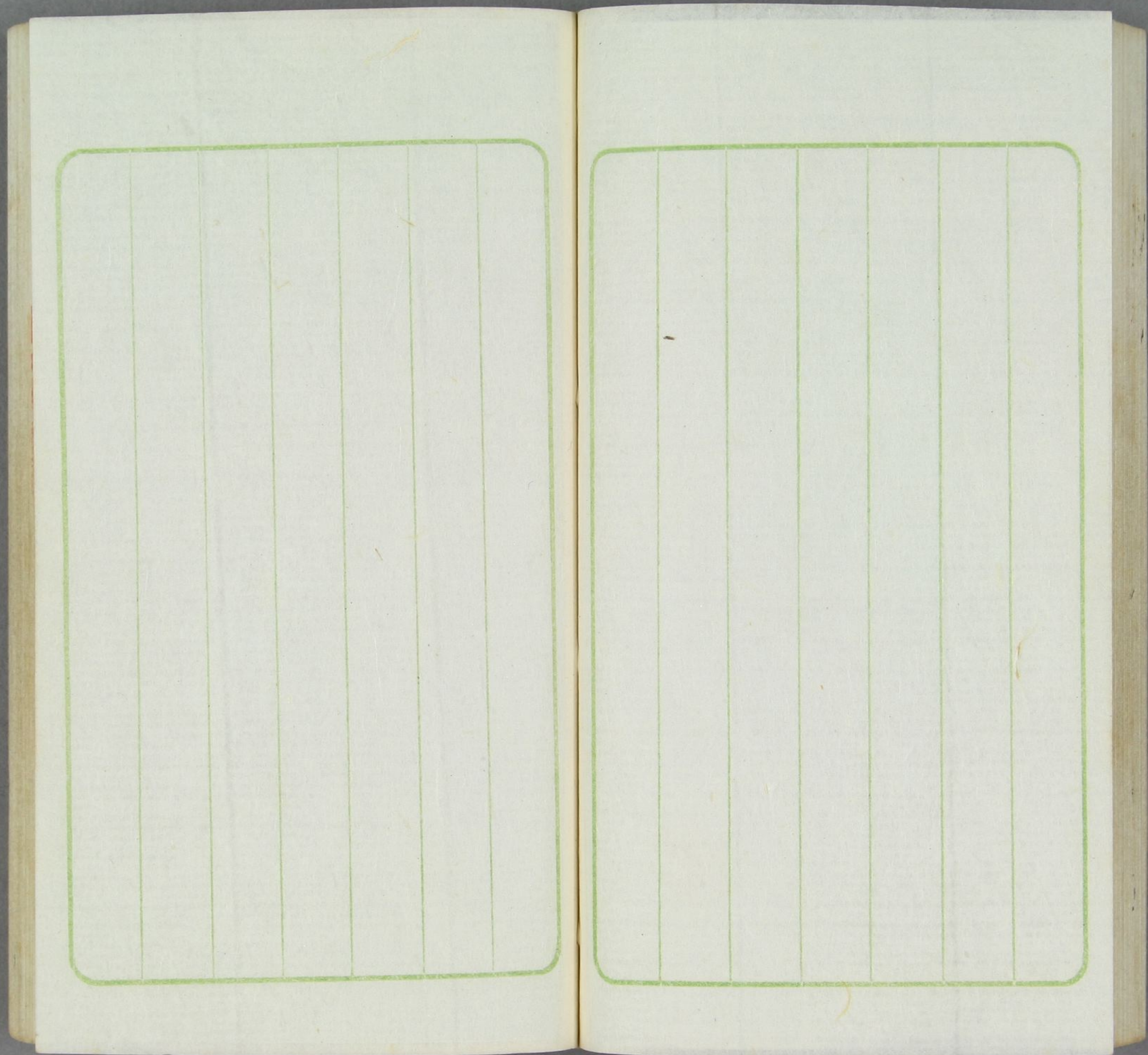
名前を書いた文でウシザ
リする、其上系図を書か
せられたり、肩かこつて仕方が
ふい、謹んで御免を蒙る



善く飲み善く罵る
とい諸人の言評とか
りす事と事と在り

獨醉





根木町せう

上野新巻の町と一帯は
三月に越音まきの日に江戸
の湯子屋蔵前子生しの多
科多めの田舎を今は原
草や又貸し採集魚の必と委

収止公野心詰々甘ク
未は自ら万石を少
旅の際此の命の目記す

たそ待也
今迄天浪花の北浦に
に似たる辰をあつたりんば
此の身もその生は正し
多時早々の行はせり

は越えし寺の家屋は後鶴島
の傍下海早老の所に住く
小身者素より寒村者なり
の之を待たず板紙もな
く僅かに文字と書はるは
日一片紙の書詩年一紙と
帳と録へたり一に因り

キー又加の麓と流る
流本の川のそ水ん
川とも移る居り
の望みは山を水も
其一端も



古事考勸業之圖

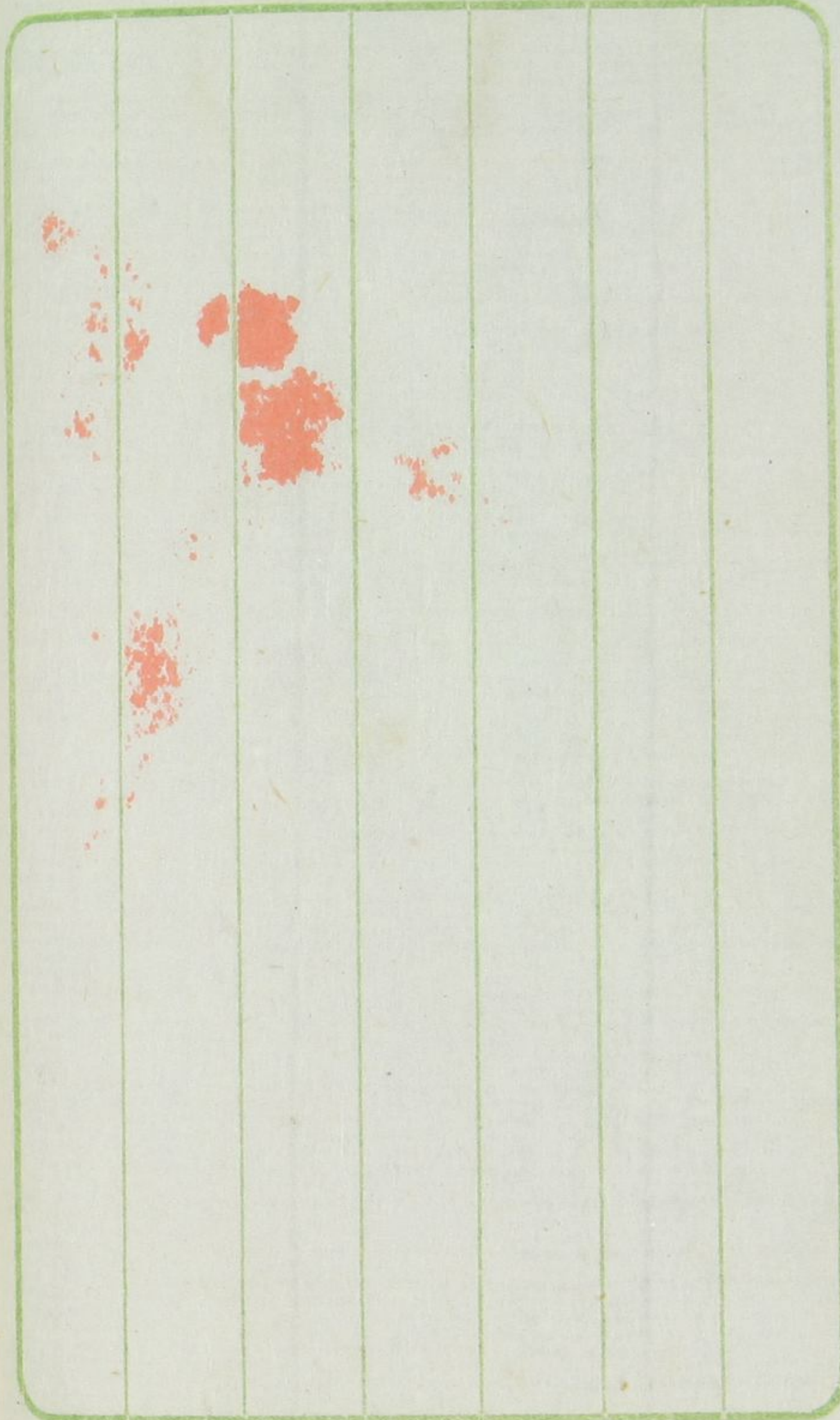
堪利序

A table with 6 columns and 10 rows is located on the right page. The table is empty and has a green border. There are several red ink stains on the page, primarily in the upper left quadrant of the table area.



古事考勸業之文圖

堀利彦





中隱年表

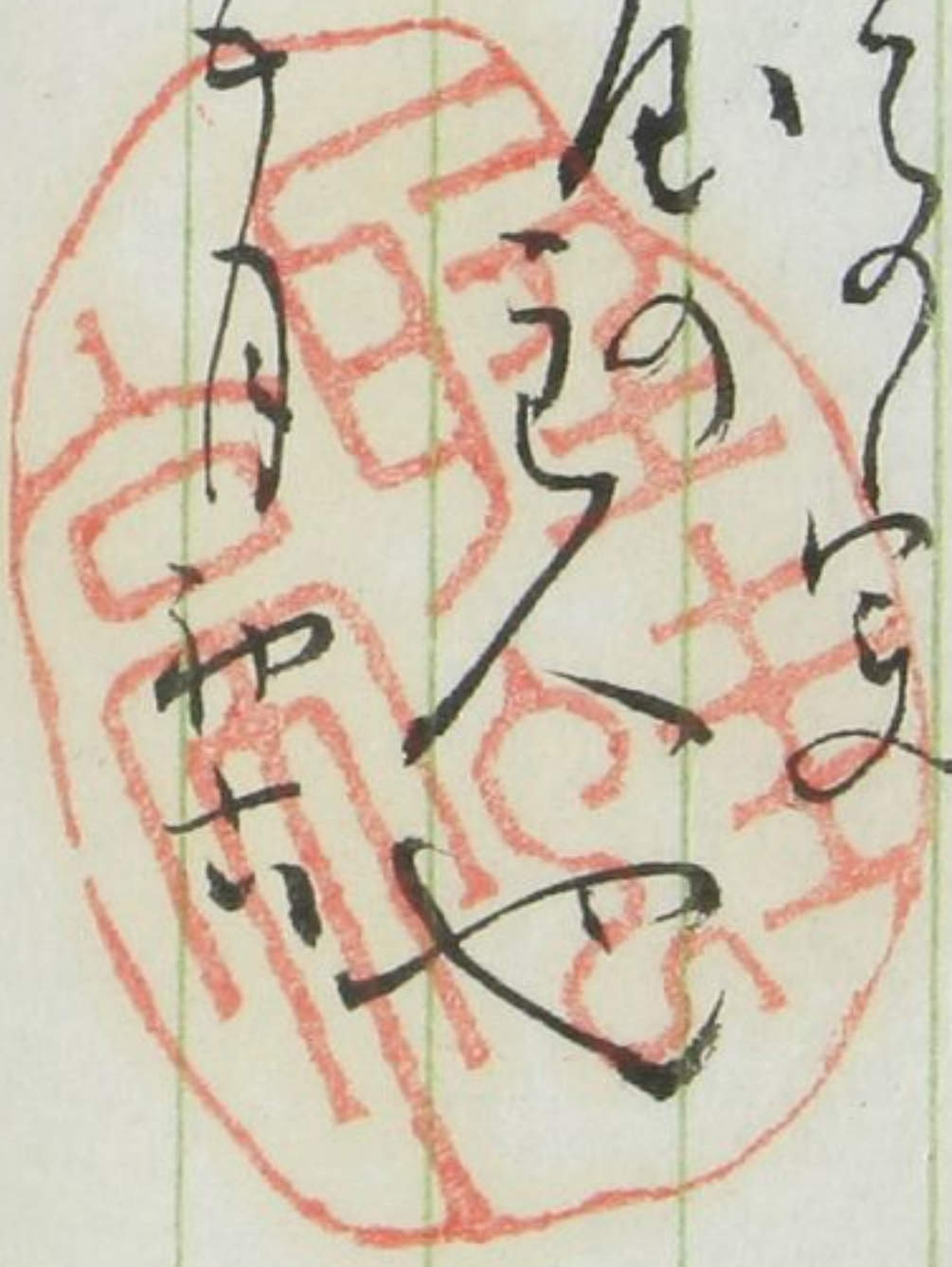
生於越前福井之宮至小浜之
濱之北九十年間未及自稱
程之志也
由中隱年表





心よりお祈り申す
此の御事
名を

水落文庫




かたじけなく
お祈り申す

父は京人母は江戸神戶
まは太極の長し今京教に
住す

山巨杜

天香園蔵

子孫

右田寅彦 

酒かへてくるか

梅子

上野の人物に逢ふ

田圃権系

東京でけしんく東京で音ち東
京ぐ甘帯を枯つて東京で音
して居るは粹れ江戸の見自牧
ぢやア祿つこのやぶち阪津見
アぬ一也

學

止

風狂を寅たよ學び 駈西(海)流
村糸に時じ ハイカラ 袴は衣に季じ
酒と母野にまよふ

辰三の春

山本笑月



岡本藏書

岡本栞仙

通稱猶ま昭信之年一坐を
白糸三条カ枕のヤ相瓦了島屋
の主人たり

シロカ履ヲまき

一箇ノ年自ラ除ハセ

ハカシメヨリ

ハカシメヨリ

井ノ口ニまきの時

とよみ候ちるかす

岡本栞仙

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or a title.

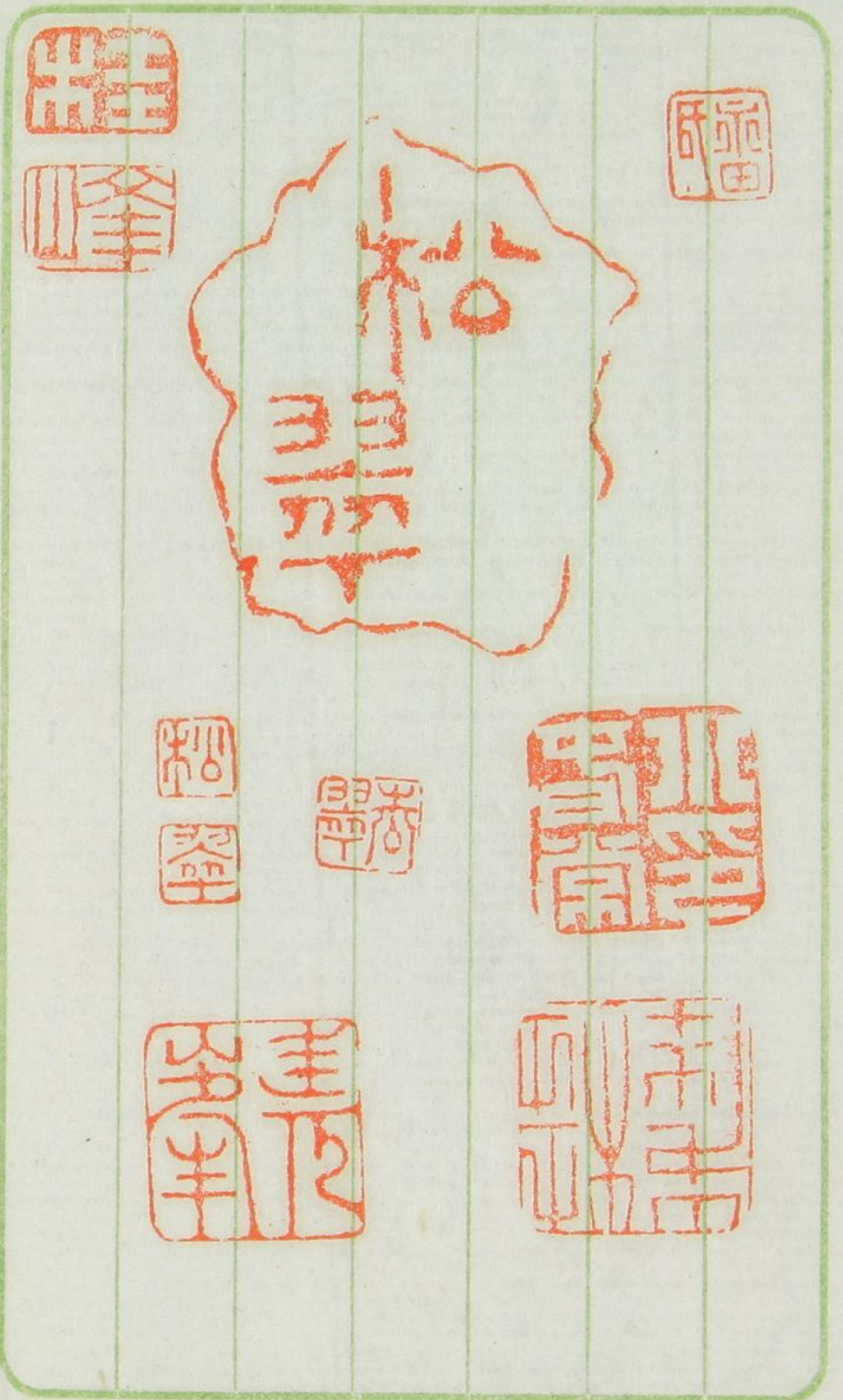
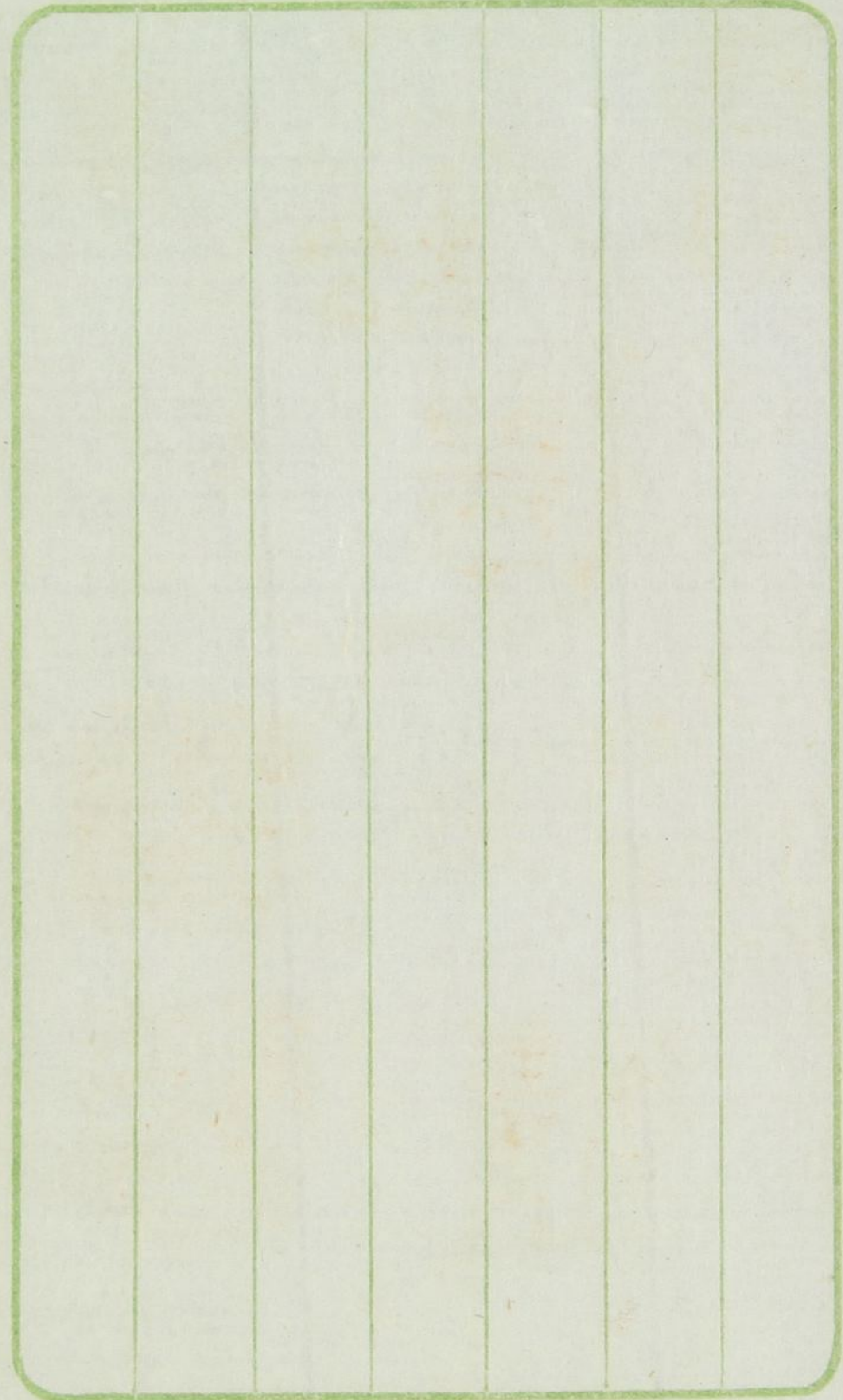
Handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of text.

姓上源氏。其口亦因。後上上。其
為中春常。通補竹。其口亦
招翠。桂由常。其口亦。大陽。其口亦。

二五

招翠





天民

松崎市郎

明治十七年生、美術人ホウを以て誇る致
し、一眼文明、亦流の新聞記者に
出世せしモガキのこも前途遠慮に、扱
に無き先容の哀史あり、扱に有りし亦新
聞記者、書指行向、雑居大衆、民友社の
小使士の閑歴あり、嘗て大正朝日新聞社

最下教員ホカモ、他日こそ誇りとするべき
時刻の確信に働きて居り、父妹まゝ有
り、別荘惟我様、自由即、空会坊、俵屋
十五貫四百、最も新刻と好む。

(明治三十八年六月月拾壹取の日記す)
附記 尚浮生部を~~也~~得立意として居り、
廣窓の南を北に任し居りり公上

西河通徹

南豫字和島の立派、年齢を茲に記す

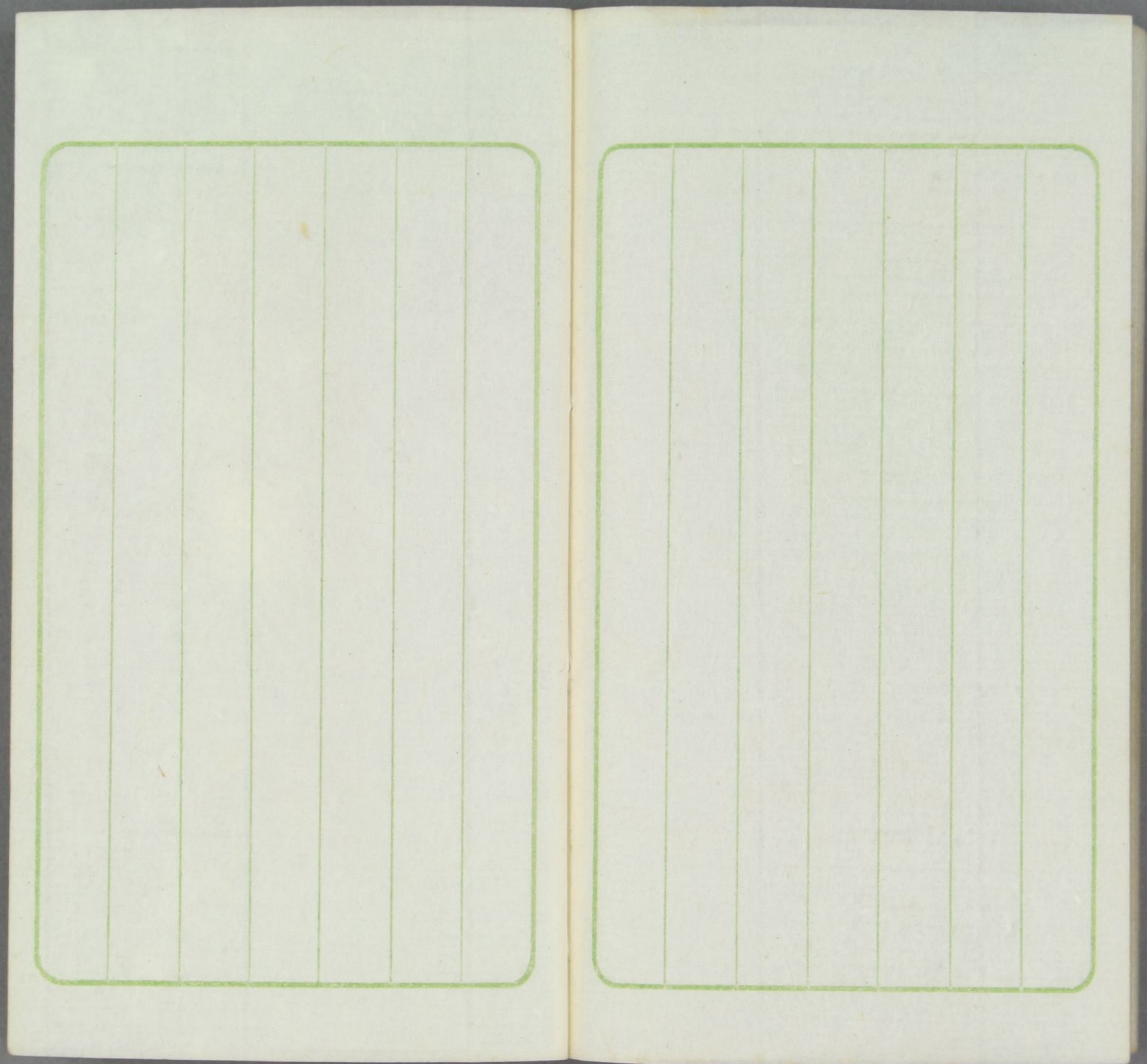
ことは容赦してやる、鬼城と號し一寸

ふらそうおもも其實是れは豫南に我

々たる一山山嶽の名をて由來此の郷人に此號

を書すもの多し、此の鈍漢学校教師に

蹶き政況運命の敗れ新聞記者も物
成らず、意の朝鮮に累の流落し何
驚面壁九年久、獨對南山既十年し
と詩詠らす侶もならず、歎洒灑みも
たらぬ嘖語をうたりて、將に米畧往生
を遂げんとし、了りたりか



生れし群馬 今も京頼

湯はな月

母の胎より

はらわのまを

與へたまふに

我いしそきぬ

はらわのまを

やまの神

まゝやうとこふ

まゝやまの神

我ほめん

取らせたまふに

やまの神

月
之
影
也

名利よつかをきりて名利を
得ず江湖に放浪す事
二十有余年遊ニ昆ニ錡
雜報カ中ニとりあり終ニ人
了
うらやま

常島猪衣
邦 碧霞庵

碧霞庵に庵了。

うらやま

林水にうらや

油をうらや

